

全国町並みゼミ大内・前沢大会を終えて

9月9日(金)から11日(日)にかけて開催しました第39回全国町並みゼミ大内・前沢大会を無事に終了できましたことを、改めて御礼申し上げます。大会の振り返りと、事務局としての感想を述べさせていただきたいと思います。

開催までの経過

東日本大震災後、風評被害で観光客が激減した会津地方で「会津復古会」、「喜多方のれん会」(現、蔵の会)、「大内宿保存会」という3つの全国町並み保存連盟加盟団体と、重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた「前沢景観保存会」で、2014(平成26)年度の会津大会開催に向け、2012(平成24)年度に準備を進めておりましたが、当時は見送りとなりました。改めて、全国町並み保存連盟から2014(平成26)年度に2016(平成28)年度大会の開催要望を下郷町大内宿(おおうちじゅく)、南会津町前沢(まえざわ)地区で受け、2015(平成27)年度の実行委員会立ち上げからは1年半ほどの準備期間を経て開催に至りました。

途中、参議院議員選挙のため大会日程変更を余儀なくされ、参加者の皆さまにもご迷惑をおかけしましたが、行政が事務局で入らざるを得ない状況でしたので、斟酌いただければ幸いです。



初日の「町並みを次の世代へ」では大内宿と白川村のお話を伺う

大会1日目 全体会

大会テーマは「町並みを次の世代へ～保存と暮らしの共存～」としました。全国的に地方は過疎・高齢化が進み、地域コミュニティの次世代への引き継ぎが課題となっています。観光地化している大内宿、静かな生活を望む前沢地区、生活や住民の状況は異なりますが、保存と暮らしを共存させながら次の世代へ継承していくことは共通の課題であり、大会に参加くださったみなさまの地域にも通じるころはあったのではないのでしょうか。

さて、1日目の全体会は、下郷町の「下郷ふれあいセンター」を会場に開催しました。開会式に引き続き、今年度創設された峯山富美賞の授賞式が行われ、NPO法人「軀まちづくり工房」の松居秀子さんが受賞されました。続いて、「町並みを次の世代へ」と題した対談を行いました。その後、開催地報告・各地からの報告に続き、ブロック別会議、歓迎交流会を行い、初日の全体会のプログラムを終了しました。

歓迎交流会では、地元の郷土料理をメインに提供させていただきました。「しんごろう」(半つきのご飯を丸めてじゅうねん(えごま)味噌を塗り香ばしく焼いたもの)など炭水化物ばかりでお腹いっぱいになってしまったと



歓迎交流会。会場外には郷土料理の屋台が出、そばもふるまわれた

と思いますが、南会津町の4つの蔵の日本酒はお楽しみいただけたでしょうか。

半日という短い時間に目いっぱいプログラムが組まれていましたので、時間が十分に取れないところもありました。今後の大会では、内容の取捨選択も必要ではないかと感じました。

大会2日目 分科会

2日目は分科会を開催しました。午前中は町並み見学、午後はそれぞれに分かれてテーマごとにパネルディスカッション等を行いました。大内宿と前沢地区の2地区は、車で2時間弱の移動距離があり、公共交通機関も大変少ない地域ですので自由な移動は難しい状況でしたが、それが南会津地域の現状であるということもご参加いただいた皆さまには感じていただいたことと思います。

分科会の詳細は割愛させていただきますが、各分科会のテーマは次のとおりです。

第1分科会(大内) テーマ「町並みの保存と活用～町並み保存は住民の味方か?～」参加者と地元住民が今後の大内宿について考えるワークショップ

第2分科会(大内) テーマ「人が住み続けられるまち」生活文化や技術の継承について事例発表とパネルディスカッション

第3分科会(前沢) テーマ「自主防災と持続可能なまちづくり」防災対策や組織づくりについて事例発表とパネルディスカッション

第4分科会(前沢) テーマ「農村集落の生き残り方」過疎・小集落の保存・継承、活性化について事例発表とパネルディスカッション

第5分科会(田島) テーマ「よそ者の目で田島の魅力を掘り起こす」(全国町並み保存連盟主催) 町並み保存の取り



1～4分科会参加者は大会にあわせて行われた屋根葺きを見学

組みがない田島地区を外部（よそ者）の目から見た魅力とその活用について考えるワークショップ

分科会には、各方面で活躍されている多数の出演者にご協力いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。また、ワークショップ形式での分科会にご参加いただいた皆さまには、ご協力をいただきありがとうございました。

大会3日目 全体会

3日目の全体会は、南会津町の御蔵入（おくらいり）交流館を会場に全体会を開催しました。まずは各分科会の状況について、学生ボランティアの皆さんが夜遅くまでまとめた資料を発表いただきました。各分科会の状況をわかりやすくまとめていただき、若者の力を感じました。続いて、地元芸能披露として、田島祇園祭のお囃子「しゃんざり」を保存会のみなさんに演奏していただきました。続いて、福川理事長の進行により会場の皆さまとの総括討議が行われました。最後に次期開催地の名古屋市有松のみなさんへ大会旗を引き継ぎ、大会の全日程が終了しました。

午後からは、会津若松・喜多方コースと南会津コースの2つのエクスカーションを設定し、希望者にご参加いただきました。

実行委員会事務局の経験から

行政の職員として通常の業務と並行しての大会の準備、地元の方々・連盟との調整、実行委員会やスタッフを動かしていくということは、事務的にかなりの負担でした。また、下郷町と南会津町は隣町ではありますが、下郷町役場と南会津町館岩総合支所との移動に車で1時間半の時間を要するため、電話やメールで事務連絡をしながら



前沢では第3・4分科会参加者が防災訓練を見学

準備をしてきました。

そのような状況で事務局を経験し、大会を終えて感じたことを述べたいと思います。

まずは、「何のために町並みを保存するのか」「何のために町並みゼミを開催するのか」という基本理念をきちんと押さえなければならないということです。開催する側はもちろんですが、参加者や長く町並み保存に尽力されている会員さんも、町並みゼミ大会に参加される度に、この基本理念に立ち返ってもらいたいと感じました。全国の町並み保存に取り組んでいる方々が情報を交換したり、励まし合ったりしながら、お互いの情報を自分の地域に持ち帰り、新たな取り組みをしてまた情報交換する、それを一堂に会してできるのが全国町並みゼミです。町並み保存、町づくりのトップランナーである会員の皆さまには、開催地や参加者にとって建設的な、前向きに取り組んでいけるような意見交換をお願いしたいと思います。

二点目は、開催地への連盟の支援についてです。大会規模が大きくなり、地元の連盟加盟団体では事務を引き受けられない、そのために行政が動かざるを得ない、そういった状況が続いているのではないのでしょうか。大きくて力のある自治体はよいかもしれませんが、それでは都市部でしか開催できません。全国町並みゼミ開催要綱には「連盟加盟団体が核となって組織された実行委員会」という記載があります。あくまで実行委員会が実施主体で、行政主体の大会ではありません。やむを得ず行政の支援が必要になることもあると思いますが、事務局の仕事を行政に押し付けるのではなく、連盟加盟団体と行政、連盟が役割分担をしながらお互いに協力することが必要

です。連盟の皆さんには、そのような運営ができるような開催地への支援、また内部での体制づくりをお願いします。

三点目は、若者の活用です。大内・前沢大会でも学生ボランティアの皆さんが大活躍してくれましたが、残念ながら、参加者や地元スタッフには若い人の参加が少ない状況でした。町並み保存の取り組みにおいて世代交代は難しい課題だと思いますが、これからの地域を担っていく人材の育成は必要不可欠であると思います。若い人たちが町並み保存や町づくりを自分のこととして捉えるというのはすぐにできることではないと思いますが、若い人たちを巻き込むきっかけをたくさん作っていただき、全国の会員のネットワークや全国町並みゼミの場を有効に活用し、各地区での取り組みを共有していただけたらと思います。

最後に、行政の担当者としての感想になってしまいますが、大会事務局の経験により行政の仕事だけでは出会えなかった全国各地の参加者、出演者の皆さんとの御縁をいただきました。業務に追われる中、第38回豊岡大会実行委員会事務局の嶋さんをはじめ、いろいろな方に助けていただいたり、笑顔で声をかけていただいたり、そういった人と人とのつながりが本当に大きな力になりました。

今後開催される全国町並みゼミが、開催地、会員、参加者の皆さまにとってますます有意義なものとなるよう祈念し、第39回全国町並みゼミ大内・前沢大会実行委員会事務局としての感想を終わりたいと思います。本当にたくさんの皆さまにお世話になり、ありがとうございました。

(木村沙織<下郷町教育委員会事務局文化財係>・

渡部浩一<南会津町舘岩総合支所振興課企画観光係
兼南会津町教育委員会分室>

／第39回全国町並みゼミ大内・前沢大会実行委員会
事務局)

*現在、大会報告書を学生ボランティアのみなさんの協力も得て、編集集中です。大会に参加された方にはお送りする予定です。

*第40回全国町並みゼミ名古屋有松大会は、11月17日(金)～19日(日)に愛知県名古屋市有松で開催する予定です。



実行委員会、学生ボランティアのみなさんに感謝します

報告 犬山市城下町地区の火災—火災後の現状と課題—

平成27年1月11日(日)午後7時20分頃、愛知県犬山城下町本町通中心地の店「ローレライ麦酒館」二階から火が出ていると消防に、通行人から電話が入り、消防車20台が出て消火に当たったが、6時間後の午前1時過ぎに、住宅や店舗5棟全焼して鎮火した。出火の原因は漏電の可能性が強いとのことである。

建物の状況

火元のローレライとその南隣の二番屋は昼間は店に人がいるが、夜になると無人で、南隣の永井家は空き家であった。これだけの大火になったのは、火元のローレライと二番屋は元々六間間口の大手であったが、半分に分割され、三間間口二軒に切り売りされた建物で、二階は襖の間仕切りであった為、火の回りが早く、発見が遅れた為、大火となったのである。

下記の写真右端の焼失建物は、町年寄りを務めた大島家の旧本宅で、北側に江戸時代から間口6m、奥行15m程の空地で奥に書院棟が所在し、馬繋ぎ場所であったが戦後駐車場となっていて、此处で焼け止まった。

此の大島家と永井家は江戸後期の建物で、あとの3棟は昭和初期の建物で、焼失したのは痛恨の極みである。

私は表側が残っているので、その部分を修理再用し、背面側を造れば元の町並みが再現できると考えて、犬山市歴史まちづくり課に提案していた。

しかし、地元の「まちづくり株式会社」(民間と市が資金を各半額負担し設立した会社)は、市民団体に呼びかけ、2月3日(火)、市福祉会館会議室で「火災復興協議会」

を開催し、一旦、町づくり株式会社が焼失した建物を全部撤去して、新たに耐火構造の連続店舗を新築し、資金は各土地の所有者が負担し、償却することを提案した(各家の負担額は4千万円ほど)。

しかし各所有者は、自分達になんの相談も無しに、こうした関係の無い人達に決められては困るとの意見が出され、紛糾し、被災者は自分達で、決めるとの意見が強く出された。この結果、焼失家屋はまとめて、撤去されることになり、土地は細分されることになった。

その後の現状と課題

出火元になったローレライは地元の造園会社が20年契約で借地し、コンテナハウスを建て、上部をデッキで連結し飲食テラスとした(写真右下)。その他は計画中。

出火し、発見が遅れると、古い町並みは大火になる要素を持つ。自動火災報知設備・住民の消火設備の設置が急務である。この認識が市当局は甘かったのである。

(長谷川良夫

／NPO法人犬山城下町を守る会理事長)



整地後の旧大島家本宅跡



左端が出火元 右端が旧大島家本宅(平成26年度補助事業)



景観に配慮し、正面に門を設置

町並みニュース

●第9回まちづくり大賞

大分県別府市で開催された第59回建築士会全国大会で「第9回まちづくり大賞」に広島県庄原市東城町が、優秀賞には奈良県橿原市今井町と大分県臼杵市の3つの歴史的町並みの保存活動が選ばれました。

大会中の10月22日（土）に開催された同大会の歴史まちづくり部会では、九州ブロック代表として全国町並み保存連盟の斎藤行雄副理事長が「臼杵市のまちづくり」を、近畿ブロック代表として米村博昭さんが「今井のまちづくり」を、中四国ブロックから檜原節男さんが「東城町のまちづくり」を報告され、今井町と臼杵の報告では「全国町並みゼミ」と「町家再生交流会」にも触れていただきました。40人定員が申し込みが多く、300人の会場に変更したとのこと。建築士のみなさんの歴史まちづくりへの関心の高さがうかがえた大会でした。



満席の会場で臼杵の歴史まちづくりを紹介する斎藤行雄副理事長

●プロジェクト未来遺産2016

日本ユネスコ協会連盟は地域の豊かな自然や文化を100年後の子どもたちに残すために、毎年、市民団体が取り組む活動を『プロジェクト未来遺産』として登録を進めています。過去には、NPO法人鞆まちづくり工房やNPO法人倉敷町家トラストなど加盟団体の活動も登録されています。

8年目を迎えた今回は、新たに5団体が登録され、その中には、全国町並みゼミ「各地からの報告」で過去に報告された、新潟県村上市の「むらかみ町屋再生プロジェクト」（町屋再生プロジェクト 市民基金設立による

町屋の外観再生事業）、「火の見櫓からまちづくりを考える会」（火の見櫓からまちづくり～地域を見守る安全遺産を未来へつなぐ～）、佐賀県のNPO法人「肥前浜宿水とまちなみの会」（肥前浜宿の歴史的まちなみの保存と醸造文化の継承）の3団体が含まれています。これからの支援が期待されます。

●第6回まちづくり法人募集開始

国土交通省では1983年（昭和58）より毎年6月を「まちづくり月間」としてさまざまな行事を実施しています。2012年（平成24）年に創設された「まちづくり法人国土交通大臣表彰」は、都市施設等を含む地域のまちづくりにおいて、事業収入を確保しながら、経営能力やコミュニティのつながりを活かし、都市の課題解決に取り組む先進的なまちづくり団体を表彰し、広く紹介することで、各地のまちづくりを一層推進するために行われています。「まちの活性化・魅力創出部門」、「まちの安全化・快適化部門」、「まちづくりの担い手サポート部門」の三部門の表彰がありますが、今回の募集にあたっていくつかの変更点があり、これまでよりも応募しやすくなっています。受賞者は6月の受賞式で表彰される他、国土交通省のHPや各種イベント等で広く紹介されます。

全国町並み保存連盟も推薦団体になりますので、ふるってご応募ください。

募集期間：～平成29年2月22日（水）

募集対象：自治体や他の法人等が推薦する都市の課題を解決する先進的なまちづくり法人（まちづくりの推進を目的とする会社、NPO法人、社団法人及び財団法人等
変更点：

- ①今回より、法人格を有しない団体でも、構成員に法人格を有する団体が含まれている場合は、応募可能となる
 - ②今回より、「まちの活性化・魅力創出部門」・「まちの安全化・快適化部門」・「まちづくりの担い手サポート部門」の各部門を限定せずに応募が可能となる
- 詳しくは国土交通省HPをご覧ください。

http://www.mlit.go.jp/report/press/toshi05_hh_000167.html

問合せ：国土交通省 都市局 まちづくり推進課 官民連携推進室 能勢・佐久間

TEL：（03）5253-8111（内線32553）直通（03）5253-8407

FAX：（03）5253-1589

連盟からのお知らせ

●歴史的景観都市協議会にオブザーバーとして出席

10月27日(木)に長崎県長崎市で開催された第44回歴史的景観都市協議会総会にオブザーバーとして出席しました。この会は、歴史まちづくりを進める地方自治体担当者の集まりで、近年、歴史的風致維持向上計画認定都市の加盟が増え、今回で47市町村になりました。

今年は、国土交通省の基調講演の中で、歴史まちづくりのノウハウの共有・ネットワークの推進事例として「全国町並みゼミ」を紹介いただきました。また、いわゆる「歴史まちづくり法」が施行され8年がたち、認定市町村が50市町村を超え、歴史まちづくりのメニューも増えてきましたが、安定的な支援メニューの要望や、熊本地震などの災害支援などが話題になりました。来年は、山形県鶴岡市で開催されます。

●大成歴史環境基金助成金が決定

2016年度「公益信託大成建設自然・歴史環境基金」に申請していた「わが国の町並み保存を担ってきた住民活動―その歴史的検証と再活性化方策の検討」に50万円の助成金が決まりました。期間は2018年(平成30)1月末までで、全国町並み保存連盟の活動を活性化するためにブロック活動を強化していく方針で、北島力常任理事を中心として検討していくことになりました。内容については、改めてご報告します。

●第40回全国町並みゼミに向けて

40回の記念大会は、第1回全国町並みゼミを開催した愛知県名古屋市有松を中心に開催します。



市長室で有松紋のシャツを着た河村市長と面会

「有松まちづくりの会」が選定記念行事などに取りくんできたため、実行委員会の発足が例年より遅れていますが、昨年9月29日(木)には開催協力依頼のため服部豊会長、荻谷勇雅副理事長らが河村たかし市長を表敬訪問、10月1日(土)に有松小学校で開催された選定記念式典には福川裕一理事長が出席しました。さらに11月7日(月)には第39回全国町並みゼミ大内・前沢大会実行委員会事務局も参加して、引き続きを行い、「有松まちづくりの会」のみなさんと東海ブロックの高橋徹・常任理事と浅野聡理事を中心に準備を進めています。

また、この間に有松では、竹田邸はなれを有松紋のライブラリーカフェとして再生するためにクラウドファンディングで募集していた目標額500万円が達成され、「なごや歴史的建造物保存活用工事助成(クラウドファンディング活用型)」の第1号事業に決定、旧竹田家はなれ改修工事がスタートしています。

●全国町並みゼミ記念行事について

第40回全国町並みゼミの開催に向けて、記念行事を計画しています。ひとつはこれまでの全国町並みゼミの記録映像を作成し、第40回全国町並みゼミ名古屋有松大会で上映する予定です。第38回全国町並みゼミ豊岡大会のカメラマンを担当した映像作家の藤原次郎さんに製作を依頼しました。今回の事務所移転作業でも探していますが、特に初期の町並みゼミ開催時の資料がありません。過去の大会開催地で写真や映像をお持ちであれば、ご提供ください。準備が整いましたら、改めて全国町並み保存連盟事務局からご連絡します。

事務局の電話番号が変わりました

全国町並み保存連盟事務局は、年末12月15日に東京都文京区(株)まちづくりカンパニー・シープネットワーク事務所内に移転しました。シープネットワーク事務所は福川裕一理事長が仕事をしているオフィスです。同事務所が4月に移転を予定しているために、全国町並み保存連盟事務局も再移転する予定です。

現在、郵便は旧事務所から転送し、電話番号のみ変更しました。移転の電話番号案内も設定していますが、3か月間のみですので、ご注意ください。

新番号(12月15日～): 03-6240-0321

●第3回理事会は大分市戸次で開催します

全国町並み保存連盟は、年に3回理事会を開催しています。1回目は総会にあわせて、2回目は全国町並みゼミにあわせて、3回目は各地の加盟団体のみなさんを訪ねています。今回は、大分県大分市の「戸次（へつぎ）本町街づくり推進協議会」の協力で理事会を開催します。宿泊は第4回九州ブロックゼミの開催地であった湯平（ゆのひら）温泉（大分県由布市）、石畳の坂道の風情のある温泉街です。大分市戸次本町は、臼杵藩の在郷町として栄え、江戸時代末から戦前までの歴史的建造物が残され、2002年（平成13）から街なみ環境整備事業で町並みが整備されています。協議会と杏の会では、町並みガイドや郷土料理の復元、ギャラリーの活用などに取り組んでおられます。

会員のみなさんは理事会にオブザーバーとして参加できます。1日のみの参加も可能ですので、お問い合わせください。みなさまの参加をお待ちしています。

日時 3月4日（土）～5日（日）

プログラム

○旬のふぐを堪能するオプションルツアー

3月3日（金） 臼杵に17時までに集合、臼杵泊

○理事会

3月4日（土）

14時30分 湯平温泉集合

15時～18時 第3回理事会

19時～21時 懇親会

○見学会＋交流会

湯平温泉～戸次（参加者の車に分乗予定）

10時～11時30分 戸次本町見学会

12時～13時 昼食 郷土料理（予定）



町家や洋風の郵便局などが混在する魅力的な戸次の町並み

13時30分～15時30分 交流会

15時30分 解散

交通

行き）湯布院経由：大分空港～湯布院（バス55分）、
湯布院駅～湯平駅（JR12分、時刻は要確認）

大分経由：大分空港～大分（バス約60分）

大分駅～湯平駅（JR35～60分、本数多い）

湯平駅～旅館（旅館送迎10分）

帰り）バス15時58分戸次→大分駅前16時27分着

大分駅～大分空港（バス80分）

費用（予定）

臼杵ふぐ料理 8000円（飲み物別）＊宿はご紹介します

4日（宿泊・懇親会） 15,000円

5日（見学会・昼食・交流会） 2,000円

申込み・問合せ 連盟事務局に2月17日（金）まで

●新年度全国町並み保存連盟の総会について

総会は、会員のみなさんが集まりやすい東京周辺と新幹線停車駅を隔年で開催しています。今年は5月27日（土）に東京周辺で開催する予定です。改めて次号でお知らせします。

編集後記／本年もよろしくお願いします。本紙の発行は3・6・9・12月の15日ですが、事務所移転のため、本号の発行が遅れました。申し訳ありません。／4頁の長谷川良夫さんによる「犬山城下町火災その後の報告」は、年末の糸魚川大火前に書かれたものです。長谷川さんは、大内・前沢ゼミ「各地からの報告」でも復興の困難な状況を報告し、まず火事を起こさないように会場に訴えていました。／12月22日に発生した糸魚川大火で被災された方には心よりお見舞い申し上げます。今回は風害によるものとして火災で初めて被災者生活再建支援法を適用すると報道され、全国からふるさと納税での応援や義捐金募集の動きも聞かれます。今後の動きを注視していきます。（Y）

発行：特定非営利活動法人全国町並み保存連盟

tel. 03-6240-0321

mail: matinami@pop02.odn.ne.jp

http://machi-nami.org/

一緒に活動する団体・個人会員を募集しています

団体会員 入会金 10,000円 年会費 30,000円

個人会員 入会金 1,000円 年会費 2,000円

＊全国町並み保存連盟は、認定NPO法人をめざしています。3000円以上の寄付をお願いします

＊振込先 ゆうちょ銀行019-当座0195264

関東ブロック町並みゼミ in 藤沢

全国町並み保存連盟関東ブロックでは年1回、会員の交流と新しい仲間を増やすために「関東ブロック町並みゼミ」を開催しています。今回は景観や歴史的建造物保存の市民活動が盛んで、2011年に市内の団体で結成された「湘南藤沢文化ネットワーク」の協力で開催します。藤沢宿は東海道の宿場町で、箱根駅伝でも知られる遊行寺（ゆぎょうじ）の門前町として栄え、藤沢市は2015年に「街なみ百年条例」に基づく「街なみ継承地区」に指定し、歴史を活かしたまちづくりを進めています。また、神奈川県にはこれまで加盟団体がなかったのですが、県内には多くの団体があり、交流の場として「湘南邸宅文化ネットワーク協議会」が結成され、毎年「湘南邸園文化祭」を開催するなど、活発に活動しています。近年のJ Rの直通運転などにより、北関東の歴史的町並みと交流しやすくなってきています。今回は隔年開催「藤沢宿のおひな様」にあわせて企画していただきました。ぜひ、藤沢宿におでかけください。

日時 平成29年2月25日（土）13時30分～16時45分

会場 済美館会議室B

（藤沢公民館分館：藤沢市本町4-6-16）

プログラム

○まち歩き＜定員：40名、先着順＞

10時 藤沢駅北口サンパール広場集合

10時30分～12時 まち歩き（歴史的建造物、史跡等）

○昼食・遊行寺見学 会場：ふじさわ宿交流館

12時～13時30分 昼食「謹製藤沢宿御弁当」

*食後、希望者は遊行寺経由でシンポジウム会場に移動



昼食会場の新築のふじさわ宿交流館

○シンポジウム 会場：済美館

13時15分 受付開始

13時30分 開会

13時40分 基調講演「藤沢宿地区のなりたちと次の世代へ継承したいまちの魅力」

講師：中島直人・東京大学准教授

14時40分 休憩

14時45分 各地の報告

15時50分 意見交換会

16時40分 まとめ

16時45分 閉会

○懇親会＜定員：20名＞ 会場：蔵まえギャラリー

17時30分～19時30分

費用

まち歩き 500円（資料代、保険代）

昼食 800円

シンポジウム資料代 500円

懇親会 2000円

主催 全国町並み保存連盟関東ブロック

主管 湘南藤沢文化ネットワーク

共催 藤沢市

問合せ・申込み

連盟事務局まで。2月17日（金）締切

◆「藤沢宿のおひな様」（2月25日（土）～3月5日（日））
藤沢宿の歴史的建造物の町家、蔵及び商店 約10ヵ所予定
ツアーを期間中、2月25日、3月3日に予定



湘南藤沢文化ネットワークの活動拠点「蔵まえギャラリー」